

学校教育振興会について どのように承知しているか

内田精彦 議員

町長 学校教育振興会の持つ役割は大きく評価している



問 学校教育振興会について
各学校の教育振興会につきましましては、それぞれの目的により設立され、また事業計画により実施運営されており、各振興会とも教育振興を図ることを目的とし、活動されており、町長は、この振興会、そして、活動内容等について、どのように承知しているのか。

答 町内には小学校7地区、中学校2地区の教育振興会があります。会の目的は幼稚園、小学校、中学校における教育活動を援助するとともに、地区民も利用する施設、設備などの充実を図り、地

域の発展と教育の向上に貢献することとされておりまして、各地区自主的な取り組みとして、私も評価している。

収入は、年費が中心で今年度は、小学校が500円、2千400円、中学校が1千200円で運営されており、年費の差は、世帯数によるものであり、町からの補助はしておりません。支出は地区により多少の違いはありますが、各種選手会の選手派遣、スポーツ少年団への助成、部活動用品の購入等の活動費補助、また、樹木の剪定、学校花壇の肥料代等の環境整備が主なものと承知している。

問 横田小学校、中学校の教育振興会の決算書を見ますと、小学校では41万の支出の内、備品整備に24万7千円、楽器購入、修理、液晶プロジェクトIを買っておられます。全体の約60%を占めております。

また中学校では、225万1千円の支出の内、健全育成費に162万8千円、これは大会の派遣費、ユニホーム代です。これは約72%、また環境整備費が41万4千円、これは、校

舎周辺の環境整備で約18%、これらを合わせますと90%の支出となります。町立の学校であるので、当然町の予算ですべきと考えるが、増額できないのか。

答 学校の予算については、各年度の経常経費はここ数年削減しております。経常経費以外の予算につきましては、毎年度各々からの要望を提出していただき、現場確認を行ない緊急度の高い要望を予算化している。

園児、児童、生徒の活動に直結した学校教育振興会の持つ役割は大きく、引き続き地区の皆様のご協力をいただければと考えています。

問 奥出雲町街路灯整備事業について
平成21年度事業において三成地区街路灯整備工事が現在工事中である。これは以前からの施設が古くなり今回全面的に取り替える工事で、亜鉛メッキ樹脂塗装のポールの上部にLED照明また足元照明もあり、電気料は以前より40%削減の省エネ商品で、これを奥出雲町が設置、維持管理とし、電気料は地元負担となっ

ています。奥出雲町街路灯整備全体計画があるのか。

答 地域振興課長
三成地区街路灯整備工事は平成5年に町が整備したもので老朽化により更新している。奥出雲町街路灯整備全体計画は策定していない。

問 横田市街地、大市にも同じような街路灯があります。これは共同組合ニュータウン横田で設置され、現在街路灯162基組合員128人で会費と助成金で運営されています。平成3年に設置されており老朽化が進み更新の必要が近い将来来ると思うが、その時は三成地区街路灯整備工事と同じような事になるのか。

答 地域振興課長
三成と横田の街路灯は成り立ちの経緯から整備方式は異なりますが、電気代については地元負担であります。横田の改修については、三成地区とともに、本町の重要な役割を果たす地区であり、改修が必要となった時点で整備主体者及び地元の皆様のご意見を伺いながら整備方法等検討したいと考えています。

小学校再編に向けての条件整備 (町道高尾線道路改良)について

村尾明利 議員

町長 今後、優先順位を見極め整備路線として取り組む



問 昨年の1月、学校再編基本計画検討委員会の答申がなされ、検討事項の中に極小規模の小学校の方向性について述べられている。学校規模によって複式学級のある小学校を「小規模校」、全校児童数が15名以下の小学校を「極小規模校」と位置づけ、「もろもろの状況等を踏まえ学校再編整備をすること。」と答申が出ている。ここに述べられている極小規模にいち早く達するのは、現在、16名の児童生徒が通う高尾小学校で、新年度には全校生徒14名が見込まれ、平

成25年度には11名とさらに減少の予測がされている。学校再編は、十分に配慮し進めることが大切と考えるが、いずれ「良好な教育の質を担保する」とについては極小規模校にはおのずと限界があると思う。学校再編は、周到な準備期間が必要で、これら将来を見据えた条件整備の一環として、町道高尾線(下高尾、上高尾、尾白集落地内)の道路改良整備が必要である。これには、平成18年3月の第1回定例会に要望書として地元自治会長連名により陳情がなされている。町道高尾線は、地元住民にとっては主要な生活道路であって、高尾小学校もこの路線沿いにあり、通学や給食車両の順路でありながら道路は、狭い箇所が多く車両の交差を困難にしており、公共バス路線にもなっていない。学校再編を見越した条件整備についての所見を伺う。

答 町道高尾線は、今後、優先順位を見極めながら整備路線として取り組み

ます。

問 行政組織機構の2庁舎分散配置の弾力的積極的な見直しについて伺う。

奥出雲町の産業経済の主軸を成す農業の振興は、町行政の最重要課題であり、客観的に見て懸案である開発農地の立地、水田や家畜の面積、頭数からして生産指導、行政執行の効率性から農業振興課(農業公社を含む)、農業委員会は、横田庁舎内に配置が望ましいと考え

答 農業振興施策は、多岐にわたり、課題も山積していることから、迅速適切な判断を下すために協議、検討を要す機会が多く、仁多庁舎配置にメリットがあると考えています。

問 開発農地の生産振興に欠かせない営農指導体制の継続的な強化策について伺う。

現在、県から農業改良普及員三木企画幹の奥出雲町駐在を得て、開発畑での営農指導は飛躍的に

充実してきているが、今年度で横田駐在はなくなると聞いている。引き続き開発営農に係る普及員を招聘し、町駐在とすることは出来ないか。

答 県からは、雲南事務所農業普及部仁多地域振興グループを中心とした農業普及全体の体制の中で、指導を充分に行なっていくとの回答を頂いています。

問 モチ米生産振興とモチ加工施設の一体的取り組みについて伺う。

昨年は、モチ加工施設の竣工に期待し、増産を呼びかけ面積を拡大してきたが、生産者が期待したモチ米価格の引き上げには至らなかった。今後は、モチ米生産の拡大と農家所得の向上に資するよう、生産者と加工施設が一体となった取り組み方を推進して頂きたい。

答 奥出雲町産のモチ米価格の引き上げについては、毎年、JA雲南と協議、要請をしております。